

20歳過ぎたら受けよう 子宮がん検診

子宮頸がんは、年間約1万人が新たに子宮頸がんとして診断され、約3千人が亡くなっています。

子宮頸がんの発症は、子育て世代とも重なるため、「マザーキラー」とも呼ばれており、できるだけ早く発見し、治療を開始することがとても重要です。

本市においては、子宮がん検診について、20歳以上の方に子宮頸部細胞診検査を実施しており、令和7年5月1日より30歳・35歳の子宮がん検診にHPV検査を追加しています。

「子宮頸がん」はどのように発症するの？

主に「HPV（ヒトパピローマウイルス）」に感染することで発症します。

性交渉の経験がある場合、誰でも感染する可能性があります。

早期がんであれば、約90%以上の方が治るといわれていますが、初期はほぼ無症状であり、自覚症状がないため、発見が遅れる可能性があります。

HPVに感染したら、がんになるの？

HPVに感染したからといって必ずしも子宮頸がんを発症するわけではなく、多くの場合は自然治癒します。稀に、HPV感染後「前がん病変（細胞ががん化してはいないが変化している状態）」の段階へ進行し、数年から数十年でがんを発症すると言われています。

HPVに感染したらどうしたらよいの？

定期的（概ね1年に1回程度）に子宮がん検診を受診し、細胞が変化していないかを確認することが重要です。

※ HPVに感染していなかった方

今後、感染しない保証はないため、定期的な子宮がん検診の受診が必要です。

子宮がん検診の受診方法等についてはこちら▶



性感染症に潜む

妊娠へのリスク

若年層の間で性感染症が増加しています。

性感染症は感染しても無症状の場合があるため、感染に気づかず、病気が進行したり、相手にうつしたりするリスクがあります。そのため、セックスの時には、コンドームを着用して、感染を予防しましょう。

また、治療しないと不妊の原因となる性感染症があります。さらに、母子感染（母親から赤ちゃんへの感染）により、先天性の体の障害の原因となり、放置すると障害が残る可能性があります。

心配な出来事がある方は専門の医療機関や保健所で検査を受けてみましょう。また、パートナーで感染し合うピンポン感染を防ぐために、パートナーとともに検査や治療を受けましょう。

放置すると怖い性感染症

不妊

性器クラミジア

日本で最も多い性感染症。女性の80%以上、男性の半数が症状が出ないまま病気が進行。進行すると子宮や卵管に炎症が進み、不妊の原因となる。

母子感染

先天梅毒

梅毒トレポネーマという梅毒の原因菌が、胎盤を介して胎児に感染。胎児への経胎盤感染のリスクは全体で約60～80%である。皮膚の異常、リンパ節の腫れ、発育不良、髄膜炎、水頭症、痙攣、知的障がいなど全身に影響を及ぼす。

宇都宮市では、
無料・匿名で受けられる検査を実施しています。

毎週水曜日（祝日除く）

- 【即日検査】 9:00～10:00（要予約）
- 【通常検査】 9:15～10:00（予約不要）
- 【検査項目】 HIV・梅毒・性器クラミジア
ウイルス性肝炎（B型・C型）
- 【会 場】 宇都宮市保健所

原則毎月第4日曜日

- 【通常検査】 13:00～15:30（要予約）
- 【検査項目】 HIV・梅毒・性器クラミジア
ウイルス性肝炎（B型・C型）
- 【会 場】 宇都宮市保健センター

※即日検査（HIV・梅毒のみ）：採血後90分前後で結果通知
※通常検査：検査1週間後に結果通知

市HPまたは電話にて予約を受け付けています。
詳しくは市HPでご確認ください。

市HP▼



相談先 宇都宮市保健所 保健予防課
平 日 8:30～17:15
TEL 028-626-1115

